

令和7年7月7日

南の風特集号 女子日本代表国際強化試合

～ 東京大会 デンマーク戦を振り返って ～

南部地区ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

FIBA 女子アジアカップ 2025 (7月13日～20日中国・深圳) に向けて女子日本代表の国際強化試合(デンマーク戦 7/3 7/4 有明アリーナ) の特集です。

6月にはチャイニーズ・タイペイを愛知に迎えて国際強化試合2戦を行い、快勝した女子日本代表でした。今回アジアカップに向けて最後の強化試合となりました。

今回の女子日本代表のエントリーは、次の15名でした。※現在女子日本代表候補選手は25名ですが、ウィリアム・ジョーンズカップ(ユニバの大会)に参加選手や体調を考慮して参加していない選手がいます。

2番 今野 紀花 179cm (デンソー)	26番 田中 ころこ 172cm (ENEOS)
3番 馬瓜ステファニー 182cm (スペイン・サラゴサ)	37番 藪 未奈海 178cm (デンソー)
4番 川井 麻衣 171cm (デンソー)	52番 宮澤 夕貴 183cm (富士通)
5番 藤本 愛瑚 179cm (ENEOS)	59番 星 杏璃 171cm (ENEOS)
8番 高田 真希 185cm (デンソー)	75番 東藤なな子 175cm (トヨタ紡織)
9番 赤木 里帆 167cm (富士通)	77番 栗林 未和 188cm (東京羽田)
10番 渡嘉敷 来夢 193cm (アイシン)	99番 オコエ 桃仁花 183cm (ENEOS)
16番 奥山 理々嘉 180cm (トヨタ紡織)	

ご覧のように、ほぼ170cm以上の選手がノミネートされています。この15名の中から、12名がアジアカップに選出されます。2026年ワールドカップ、2028年のロス五輪を見据えてのコーリー・ゲインズ HC の思惑(若手の起用や戦略の構築)が見て取れます。そしてアジアカップに優勝すれば、ワールドカップの出場権を得ることができます。

第1戦から書きます。スターターは、高田、渡嘉敷、ステファニー、今野、田中です。第1Q日本は、デンマークのインサイドを抑えにいきますが、逆に3Pを決められ後手に回ります。(13-23) ディフェンスのローテーションとリカバリーが遅くなった感じでした。デンマークの3Pの確率が5/7に対して、日本は2/10と低調でした。またターンオーバーも5回となり日本の良さが出ませんでした。第2Qに入り日本はプレスディフェンスから反撃します。相変わらず3Pが決まらない状況が続きますが、ペイントドライブやペイントでの合わせで徐々に得点を詰めていき、32-35の3点ビハインドでハーフタイムとなります。

第3Qは渡嘉敷のインサイドでのショット、星の3Pで逆転し流れを掴みにいきます。高田が続き、星が再び3Pを沈め42-35と流れに乗ります。その後も日本のディフェンスが効果を発揮し、試合の主導権を奪うかと思われましたが、要所でターンオーバー(パスミス等)が出てしまい、デンマークを突き放すことができません。

54-47で第4Qに入るとデンマークに連続得点を許し、1点差に迫られさらに3Pも決められてしまい56-57と一時は逆転されてしまいます。しかしオコエの3Pで再逆転、その後、田中のバスケット

トカウントでリードを奪い返します。それでもこの日はなかなかリズムに乗り切れず、デンマークにスキを与えてしまい、残り1分34秒で同点に追いつかれてしまいます。その後も膠着したまま試合終了となります。(公式戦ではないため延長は行いません)

	1Q	2Q	3Q	4Q	Total
日本	13	19	22	11	65
デンマーク	23	12	12	18	65

<第1戦目のスタッツ>

日本		デンマーク		※このスタッツのデータから見れば一目瞭然ですが、課題が見えてきます。ただ新チームになって間もないことを考えればやむを得ないことです。自分の役割やチームプレーを共通理解し実行するには時間が必要だと思います。私見は第2戦が終わってからにします。
65	TOTAL	65		
16/27 (43.2%)	2PTFG	13/40 (32.5%)		
9/34 (26.5%)	3PTFG	10/28 (35.7%)		
6/7 (85.7%)	F T	9/12 (75%)		
40 (OR15/DR25)	REB	50 (OR19/DR31)		
18	T O	22		

ゲインズHCは第1戦のあと次のようにコメントしました。

「我々は自分たちのスタンダードでプレーできませんでした。こういうことは時々起きることだと思っていました。だから、これをポジティブに捉えるべきでしょう。もしアジアカップで今日のようなプレーをしたら、我々は窮地に立たされます。ですから、良いことも悪いことも受け止めます。今日は悪い試合でした。これがアジアカップで起こらなくて良かったと思います」と語りました。さらに具体的に「細かい部分ができなかったです」「トラップする時に手を使わないこと。相手がシュートフェイクした時に飛ばないこと。ボールを大切にすること。強く良いパスをすること。ジャンプストップすること。バウンズパスをすること」と続けました。

第2戦です。スターターは第1戦と同じ、高田、渡嘉敷、ステファニー、今野、田中です。

第1Qは開始1分15秒で高田が3Pで最初の得点を挙げると、ベンチから出場した星、宮澤、藪も立て続けに3Pに成功し、チーム全体で藪の3本を含む8本の3Pを射抜き、30-16と14点のリードを奪いました。

第2Qは開始1分4秒に田中がスティールから速攻を仕掛け、相手のファウルを受けながらシュートを決めます。その後3分以上にわたって得点がなかったものの、ベンチから戻ってきた渡嘉敷がゴール下シュートをねじ込み3点を奪うと、藪が4本目の3Pを沈めました。第1戦とは一転、前半から攻守で相手を圧倒します。50-27と23点差をつけハーフタイムを迎えます。

第3Qは序盤に田中、星が3Pで加点します。開始4分8秒に挙げた川井の得点を最後に、フィールドゴールが決まらなかったものの、残り1分を切って当とちゅうとステファニーがシュートを沈め、65-39と点差を広げました。

第4Qは開始から田中、藪、栗林の連続得点で7-0のランを見せると、ステファニーの3Pも炸裂します。その後も交代でコートに立った選手がアピールを続け、89-55で勝利を収めました。

昨日の反省が生かされた部分が大いにありました。次のページのスタッツを見てもらえれば分かります。藪選手が昨日の12点を上回る14点を挙げ、大会MVPに選ばれました。

	1Q	2Q	3Q	4Q	
日 本	30	20	15	24	= 89
デンマーク	16	11	12	16	= 55

＜第2戦目のスタッツ＞

<u>日 本</u>		<u>デンマーク</u>
89	TOTAL	55
14/29 (48.3%)	2PTFG	12/39 (30.8%)
18/40 (45.0%)	3PTFG	6/20 (30.0%)
7/12 (58.3%)	F T	13/19 (68.4%)
39 (OR16/DR23)	REB	40 (OR18/DR22)
12	T O	22

ゲインズHCは「**ジャパンバスケットボールとは、速いペース、3Pの多投、カオスの中での遂行力、そしてヒットファーストでのリバウンド**」と定義しました。「**今日はその遂行ができた試合。特に40本の3Pを打てたのは目標を達成した証拠。たとえシュートが入らなくても、このスタイルで戦えばどんな相手でも勝ると信じています**」と強調しました。

2戦を観ての感想を書きます。

最初に素晴らしいと思った点です

☆若手選手の活躍です。田中選手のPGからSGまでカバーするプレーぶりはアジアカップに向けての大収穫だったと思います。ドリブル力、パス力そして3Pを含むシュート力は、経験を積むに連れて必ず進化すると思います。また、第1戦目7つのターンオーバーをしてしまったのですが、2戦目は何と0でした。修正能力の高さも垣間見ることができました。さらに何よりの強みはメンタルの強さとしつこいディフェンス力です。1on1でのディフレクションは、ミスやファウルを恐れずに果敢にチャレンジしていました。

もう一人、藪選手の3Pは圧巻でした。第2戦の4本の3Pはトランジションからのものもあり体幹の強さに裏打ちされたもので、下半身の安定が決定力の基盤でした。今野選手(179cm)のPG/SGも今後期待されるものでした。女子日本代表では大型のガードとして期待大です。片鱗は十分このデンマーク戦で見せてくれました。ボール運び、パス、そしてしなやかな3Pは今後ブレイクの予感がしました。ゲインズHCも手応えを感じたものと思います。

最後に星選手の存在も目立ちました。節目となる(停滞したり流れが悪かったり)場面での3Pは日本にとって貴重な得点となりました。大けがから復帰して見事に日本代表に返り咲きました。

☆オンザコートで経験のある選手が、初めての代表選手や若手をコミュニケーションを通じて、アドバイスやリードする場面が見られ、女子日本代表の一体感が随所にみられ心強いかぎりでした。ベンチでも会話やミスした時の素早い声掛けは素晴らしかったです。

課題と感じた点です

★ディフェンス面で2つあります。一つは**オンボールディフェンス**です。一歩目のステップが遅いように感じました。特にサイズのある選手に目立ちました。ディスタンスはそれぞれであると思いますが、「ボールを見過ぎてるように思います」「ボールに意識がいくことによって、足の動きが遅れていたようです」また、簡単に足を引いてしまわないことが大事な気がしました。

もう一つはチームディフェンスです。まだ新チームになって間もないので無理もないことは承知で書きます。ヘルプ&ローテのタイミングが遅く、それに伴うリカバリーも後追いになることが多かったです。アジアカップまでに何とか改善できればと思います

- ★オフェンス面では、トランジションの攻めからエントリーする場面で停滞しそうなになった時、つなぎや合わせが遅い気がしました。停滞してからではスムーズなオフェンスはできないので、ボールマンに対する合わせはもっと早い方がいいと思いました。
- ★国際試合を観ると、どうしてもパリ五輪の敗戦がよみがえります。サイズのある外国の選手に対して、圧迫され3Pがタイミングよく打てなかったこと、ディフェンスでガード陣がプレスされボール運びを制限されてしまったことなどが思い出されます。日本にとって恒久的な命題になると思うのですが、何とかアジャストして世界に通じるバスケットボールを構築してほしいと思います。まず今回のアジアカップでは、オーストラリア（平均身長が185cm程度）や中国の205cmのハン・シュー選手、226cmのチャン・ツーユウ選手のように半端ではない大型の選手とのゲームが待っています。繰り返しになりますが、2026年のワールドカップ、2028年のロス五輪に向けての試金石ともなるアジアカップです。今現在できることを突き詰めて頑張してほしいと思います。
- ★最後になります。レフリーのジャッジに対する備えです。パリ五輪のレフリーのジャッジを観ても分かるように、フィジカルなディフェンスの許容範囲が広がっているように感じます。日本選手にとって大変不利になると思います。恩塚 亨前HCも「これからは、フィジカルプレーにもっと対処する必要がある」と言っていました。当然対策は講じていると思います。スタッフ、選手が共通理解して対応することが必要です。

【今後の予定】

7月13日～20日 FIBA 女子アジアカップ 2025（中国 深圳）

グループA：中国 ニュージーランド 韓国 インドネシア

グループB：日本 オーストラリア フィリピン レバノン

《試合予定》

7月13日 VS レバノン

7月14日 VS フィリピン

7月15日 VS オーストラリア

7月18日 準決勝予選

7月19日 準決勝

7月20日 決勝・3位決定戦

アジアカップ2025 優勝を目指す

女子アカツキジャパンに大きなエールを送り！！！！

全力で応援しましょう！！！！